

## ロータリーの黎明

バスターガバナー 宮 脇 富

人生は競争の連続であり、世界は闘争の巷であり、人類の歴史は戦争の記録であるかの観さえあって、何時の世に真の平和が望めるであろう。

約1,300万人の人的損失と122兆円の物的損失を犠牲にして戦った第1次世界大戦も、結局は、それにも増した1,600万人の死傷と155兆円を越す物的大損害を齎した第2次世界大戦の素因を造った以外の何物でもなかったといえないこともない。この人類の大悲劇も20世紀に入って僅か50年間の出来事である。この間実に3,000万人の犠牲者と300兆円にのぼる大浪費をしながら、今もなお戦争と謂わざる戦争が世界の何処かで毎日のように行われ、武器を用いざる闘争が平和と思われている国々において、絶えず展開されているということは何を物語るものであろう。

人類は果して闘争のために生れて来たのであろうか。平和は口頭禅に過ぎないものであろうか。果して人間は平和を嫌い、安寧を斥けているであろうか。人間の性は善か悪か。

人間の性は元来善なるものであると信じた。人類は平和を愛し安寧を求めておる。人類は向上心あるが故に競争はするが、闘争は避けんとしている。戦争は邪道であり罪悪である。ここにロータリーがある。

ロータリーは決して平和な環境に生れたものではない。人心は荒み、極言すれば百鬼夜行、弱肉強食の表現そのままの環境の下に生れたものである。ロータリーは、心を許して話しあえる友達に飢え、寂寥に苦しんだ人か

ら生れたものである。ポール・ピー・ハリスこそその人であった。

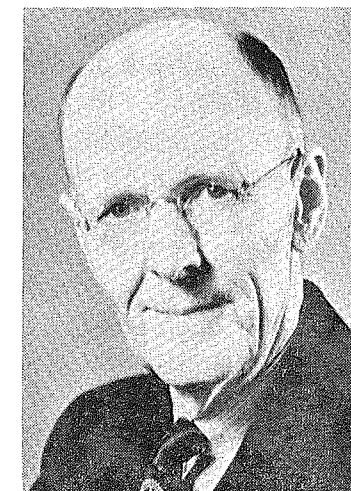
今日世界133カ国にわたって60万人以上の会員を有するロータリーも、その誕生は決して華かなものではなかった。その誕生に参加した同志はポール・ハリスの他はただ3人に過ぎなかった。その生れた場所は、ただ1つの粗末な机と4つの硬い椅子のおいてあった1鉱山技師の薄暗い事務室であった。その室の隅には帽子掛が1つ、壁は2つの絵と1つの設計図だけで飾られていた。

その事務室の主人こそ鉱山技師ガスターブ・ローアであった。彼は1裁縫師であるハイラム・ショーレーと雑談を交していたが、やがて話は若い弁護士が過去数カ月にわたって披瀝していた新しいクラブの観念についてふれ、その夜再会を約して一旦別れを告げた。話題の主人公であった若い弁護士こそ、誰あろう、ポール・ハリスであった。

その夜集ったのが、ガスターブ・ローア、ハイラム・ショーレーの他にシルベスター・シールとポール・ハリスであった。シルベスター・シールは石炭商で、シカゴ・ロータリークラブが出来た時の初代会長となった人であった。この会合では食事をとらず、会合前に勝手に食事をして集ったのである。

この集りの最初の話は、シールやハリスがここに来る前に立ち寄った、或るイタリア料理店の食事の美味のことであった。それから少し面白い四方山話があって、ポール・ハリスはやおら新クラブについての彼の観念を披

瀝し、もしここに職業人の1群が相互に良く知り合い、相互に助け合うことの出来るような定期的集るクラブが出来たならば、どんなに素晴らしいことであろうということを説明した。その時既に一業一人の原則を唱えたのであった。その理由は同一クラブの中に同業者があれば競争意識が生れ、各会員が心の底を割って話すことが困難な場面も生ずる恐れがありうるというのであった。この会合で裁縫師のショーレーが、その職業柄、彼の店の顧客の中で、彼の店で新しい服を調製することを他人に勧めて呉れる人を友達にするので、1つの考え方ではないかというような発言をした処、石炭商のシールはその考え方に賛成し、我々の1人1人は他人の福祉に対し何等かの考えを持つことが必要であろうといった。そこで、他人に対する思いやりの心を持つ人を集めようということになり、ここにロータリーが生れた。その夜こそ1905年2月23日であった。



ポール・ピー・ハリス

この4人のうち最も推進力を持っていたのは、石炭商のシルベスター・シールのようであったが、構想者は、何処までもポール・ハリスであった。

## ポール・ピー・ハリス

ポール・ピー・ハリスは1868年即ち明治元年4月19日に、アメリカ合衆国ウイソコンシン州レーシンに生れ、3才の時バーモント州ウォーリングフォードの祖父の家に至り、祖父母の慈しみと教養の下に育ち、彼の性格はここにはぐくまれたのであった。

彼の学校教育は家庭的環境のため転々として行われたもののようで、大学予備校としては、バーモント州ルドローのブラック・リバー学院及びサクストンのバーモント学院に学び、大学としては、バーモント大学、プリンストン大学及びアイオワ大学に学んでいる。1891年アイオワ大学の法学部卒業後、彼がシカゴで弁護士を開業するまでの5カ年間は、世界を知り人を知るため、専ら人生の修養に

没頭する決心をしたのであった。

その間彼は、サンフランシスコやデンバーで新聞記者となったり、ローサンゼルスで商業学校の教師をつとめたかと思うと、加州の果樹園に働いたり、葡萄加工場で働いていた。そうかと思うと、デンバーでは役者のまねをしたこともあり、コロラドの大牧場でカウボーイとなったこともある。

それから彼は南部に移り、ルイジアナ州ではオレンジの収穫場で働いたかと思うと、大理石や花崗岩商の売子として行商人の真似もした。そうかと思うと今度は家畜の輸送船に乗って英国へ2度も渡り、後にスコットランドの花崗岩、アイルランド、ベルギー及びイタリアの大理石調査のため欧州旅行をしたこと

もあった。

斯様なありとあらゆる経験が、彼の視野を広め、人格を造り、そして彼の大学時代やその後の旅行でえた面識知識こそ、ロータリー初期の伸張に実質的な援助となったようである。

彼の放浪的人生修養の5カ年は1896年を以ってその終止符を打ち、ここに彼の計画通りシカゴに行って弁護士を開業することとなった。1900年の或日、彼はシカゴの住宅街ロジャートパークに住む同業者の1友人と会食したことがあった。食後、彼は友人と共に散歩した。その時その友人は附近の商店や仕事場に立寄っては、その店の主人に彼を紹介して呉れた。彼は友人の行為に非常な感銘を受けたのであった。ポール・ハリスの訴訟依頼人は職業上の友人ではあったが、社交上の友人ではなかった。しかし、この経験から彼の考えに浮んだ事は、彼の職業上の友人の中から社交上の友人を造ることが出来ないであろうかということであった。これが代表的職業人及び専門職業人の1団を、友誼と交友の結びとするクラブ結成の構想となったのである。

続く数年間は生活と職業に没頭し、1905年に彼は職業関係に確固たる哲学をたてた。彼の弁護士としての顧客である、シルベスター・シール、ガスターブ・ローア及びハイラム・ショーレーの3人と相談して、彼が1900年以来計画を練っていたクラブの結成に踏み切ったのであった。

斯くして今日全世界にわたる12,500のロータリークラブの核が、1905年2月23日の夜生れたのであった。ロータリーの名は後に決定せられたものではあるが、その名称は会員の事務所を転々と交替に廻って会合を開いたことにその因があった。

ポール・ハリスはロータリー生みの親ではあったが、シカゴに造られた1番目のロータリークラブの会長とはならなかった。初代会長はシルベスター・シールであった。彼はシ

カゴ・ロータリークラブができてから3年目にその会長となっている。彼が会長となった頃にはロータリーの運動は漸く社会に認められ、この小さな友好団体の好印象が、彼にこの運動を他の都市にまで及ぼしたいという勇猛心を振いたたせるに至った。1908年に第2のロータリークラブがサンフランシスコに出来、漸次他の都市に及び、1910年にはアメリカ国内に16のクラブが結成せられ、その年の8月、これらクラブの代表がシカゴに集って国内ロータリークラブ連合会が結成せられるに至ったのである。

その後カナダや英連邦にもロータリークラブが出来、ここにロータリーは国際的になったので、1912年に国際ロータリークラブ連合会の結成となり、1922年にその名称を簡単に国際ロータリーと改称することになったが、ポール・ハリスは国際連合会の出来ると同時に初代会長に就任した。

ポール・ハリスの一生はロータリーそのものであったともいえる。彼はロータリーのため日本を訪れたこともあり、彼の植樹は帝国ホテルの内庭に緑の美を誇っている。しかし、彼は公民として、将たまたその専門的業績においても有名であった。国際身体不自由児童協会名誉副会長、職業道徳委員会委員長、シカゴ弁護士会理事、ハーグ国際法律会議シカゴ弁護士会代表、アメリカ弁護士会国際委員等として活躍した。

ポール・ハリスは、バーモント大学で哲学士と名誉博士の学位を受領し、アイオワ大学から法学士の称号を受けている。アメリカ・ボーイスカウトは彼にシルバー・バッファロー賞を与えた。ブラジル国は南十字章、チリー国は功労章、ドミニカ共和国はクリストバル・コロソ章、エクアドル国は功労章、フランス国はレジョンドヌール章、ペルー国は太陽章を彼に贈ってその功労を顕賞している。

ポール・ピー・ハリスは遂に国際ロータリー名誉会長として、1947年に没した。